



清新二中だより

本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

待つことは・・・温かい

校長 白石 亨

毎朝、決まった時間に通勤していると、^{かおなじ}顔馴染みになる人がいる。

顔馴染みと言っても、同じ時間の電車やバスに乗り合わせるだけの、^{うじすじょう}氏素性も知らない赤の他人だが、やはり毎日のように出逢っていると、顔だけは自然と覚えてしまうときがある。

今から5年前、前任校の春江中学校に勤務していた頃の話で恐縮だが、通勤で使っていたバスの乗客の顔を自然に覚えてしまった。乗客の人数が10名程度と少なかったからだ。その中の一人に茶髪の男子高校生がいた。派手な身なりの茶髪の男子高校生。いつも決まって始発の瑞江駅から3つ目のバス停から乗ってきた。

その日も自分は瑞江駅からバスに乗り、3つ目のバス停に向かってしていると、窓からチラリと、懸命に走る茶髪の男子高校生の姿が見えた。バスはこの高校生を追い抜いていく。どうやら寝坊でもしたらしい。懸命に走っているが、いつものバス停まではかなりの距離がある。・・・間に合わないだろうなあと思った。バスは停留所に到着し、数人の乗客が乗り降りしたが、やはり間に合わなかった。そしてバスは発車するはずなのだが・・・これが動かない。なぜだか止まったままである。いつもよりもずい分と長く停車していた。あれっ、なぜ動かない・・・と思った矢先に、茶髪君が息を切らせ、ぜえぜえ言いながらバスに乗り込んできた。バスに間に合ったのである。高校生が乗り込むとバスはすぐに発車した。

・・・これはどういうことであろうか。たまたまバスが時間調整のために止まっていたのであろうか。それとも運転士さんも自分と同様に懸命に走る高校生を横目でチラリと確認し、待っていたのであろうか。その真意は分からない。でもそのとき、バックミラーに映る運転士さんの顔がいつもよりカッコよくハンサムに思えた。

待つことは優しさなのだと思う。温かさだと思う。

本校においても待つ場面が見られるときがある。例えば、本校の伝統となっている整列移動。通常の教室から、音楽室、美術室等への特別教室に移動する際は、休み時間中にクラス全体でまとまって移動している。整列移動には全員が一緒に行動して、次の授業に遅れないようにしようとする意味合いや、ポツリと孤立しがちな生徒がいる場合、一人だけの淋しそうな教室移動がないようにしようとする意図がある。

先日も音楽の授業が終わり、あるクラスが廊下に整列して自分たちの教室に戻ろうとしていた。しかし、整列が完了しているように見えるのだが、なかなか動かない。クラス全員が身動きせず黙って立っている。先頭にいる学級委員もみんなの方を向いたままじっとしている。しばらくすると、音楽室の扉が開いて2名の男子が出てきた。それぞれが自然に整列場所にもぐり込んで合流し、全員が一斉に教室に動き出した。

後から聞いた話だが、遅れてきたS君とO君はいつも遅いのだという。生徒個々により、動作や所作にはどうしても早い遅いがある。このことをクラスの仲間は熟知していたのである。遅いことを非難したり、とがめたりせず、遅くなることをごく当たり前のよう受け止め、じっと待っていたのである。手前みそかもしれないが、本校の生徒たちが、先述したバスの運転士さんのように、とてもクールでカッコよく思えた。仲間の特性を知り、自然体で待つことのできる優しさや思いやり。清新二中生の善さだと思う。

待つことは・・・難しい。覚悟もいる。でも教育の根っ子は「待つこと」だと思っている。特に授業においては、生徒のいいところをじっくりと待つ引き出すこと、思考できる時間を担保することが肝心だ。生徒を追い立て、詰め込み、受験の上手な生徒を育てることは決して教育の本意ではない。生徒の主体性が発揮され、そのよさが生かされるよう、温かくじっくりと腰を据えて待つことのできる清新第二中学校で在りたい。